

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2021年1月～3月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約15社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

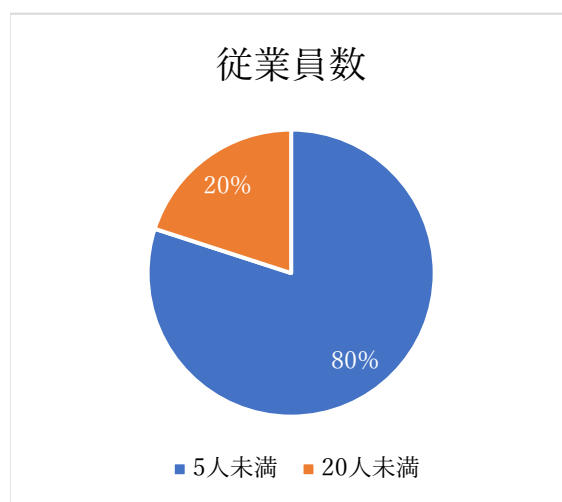
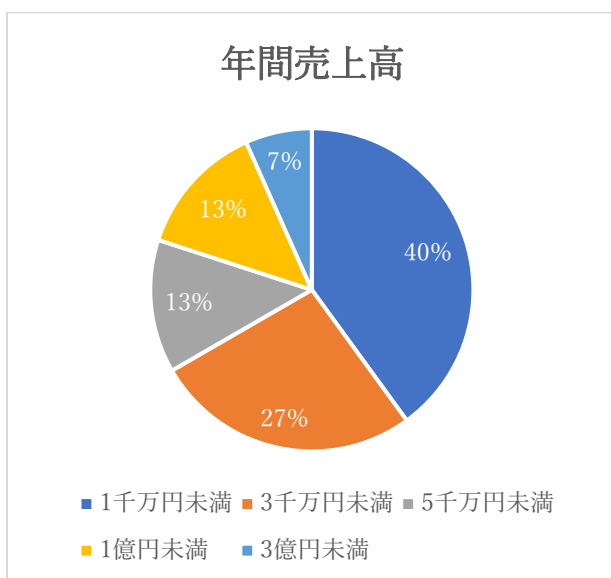
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|----|
| ① 製造業 | 3社 |
| ② 建設業 | 2社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4社 |
| ④ サービス業 | 6社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2021年1月～3月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-60.0%	-100.0%	-50.0%	-50.0%	-50.0%
販売単価	-20.0%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	0.0%
経常利益	-60.0%	-66.7%	-50.0%	-50.0%	-50.0%
資金繰り	-26.7%	-66.7%	-25.0%	0.0%	0.0%
人材確保	-6.7%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
景況感	-66.7%	-66.7%	-50.0%	-75.0%	-66.7%

- 前回（2020年10月～12月）は多少全体的に上向き傾向だったが、今回再び状況が悪化している様子が窺える。
- 特に、製造業と建設業で顕著に悪化している。一方で、サービス業は一部で状況が緩和されている様子が窺える。
- 特に、製造業において、売上高の低下が顕著であり、その影響で資金繰りの悪化にまでつながっていると推測される。
- サービス業では、経常利益は悪化しているが、資金繰りは改善が見受けられる。

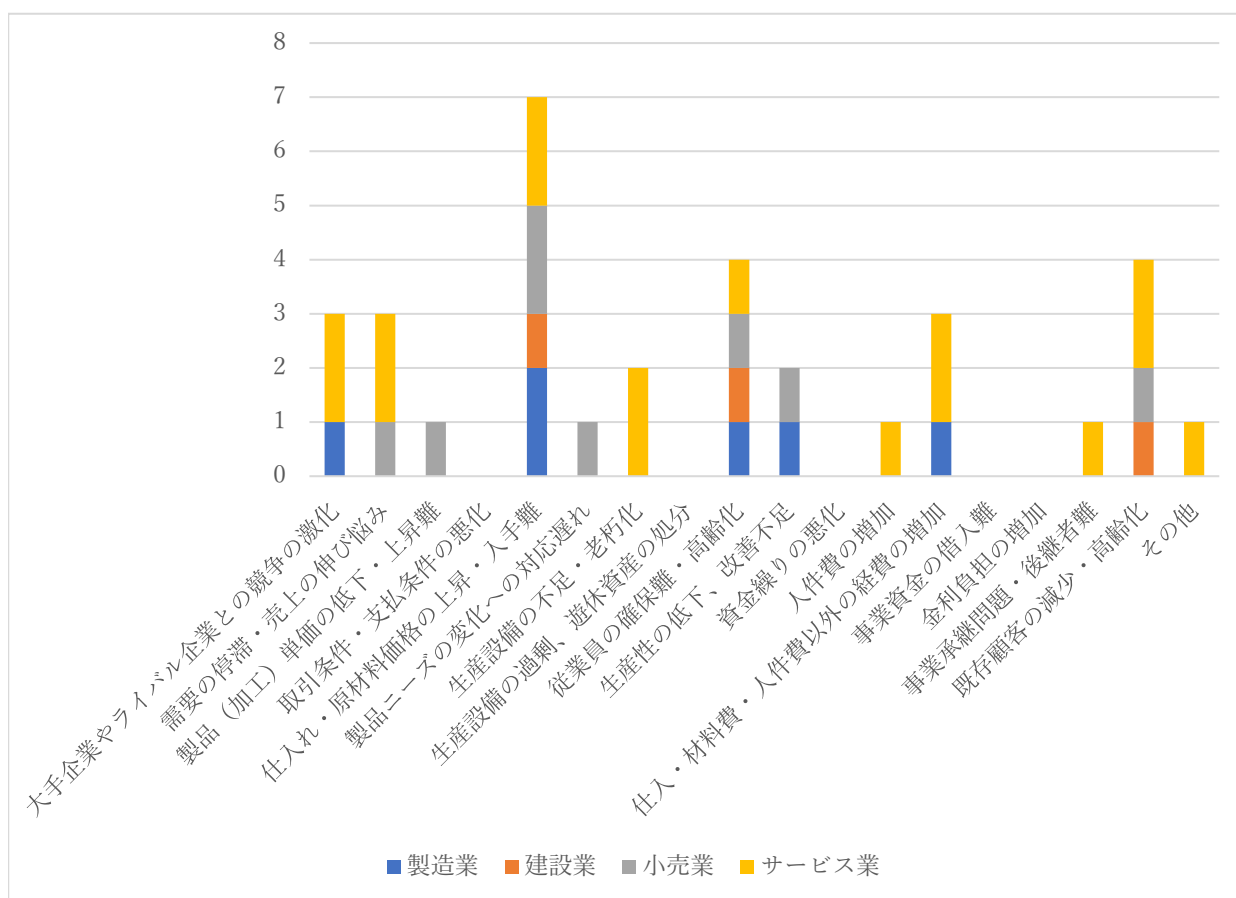
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2021年1月～3月の課題意識



- 前回と比べ、需要・売上の低迷を訴える声は減少しており、前述のDI値とは相反する結果が出ている。一方で、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難の問題は、サービス業を除いて顕著に増加している様子が窺え、売上減少の原因は、ウッドショックや半導体不足等に象徴されるようなコロナ禍に伴う仕入難に起因していると推測される。
- 設備不足・老朽化と既存顧客の減少・高齢化の問題が幾分解消されている。コロナ禍による業績低迷から脱却するための事業の再構築が進み、これに伴う設備投資や客層の変化が反映されていると推測する。

III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

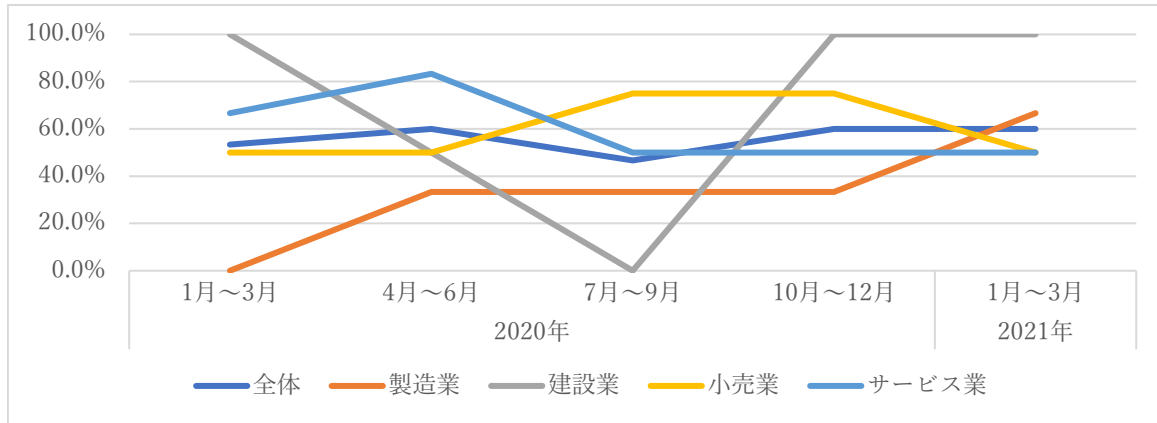
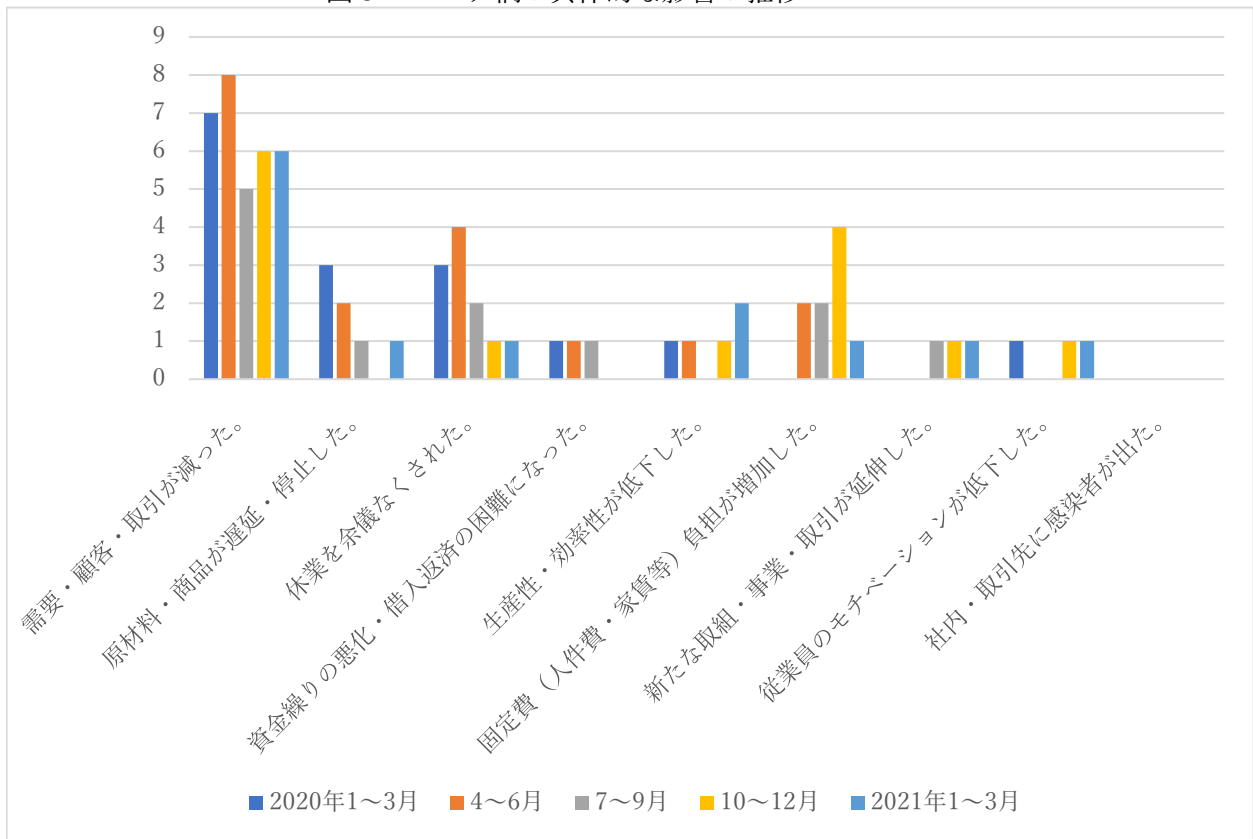


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 前回と比べると、コロナ禍で製造業と建設業が著しく悪化している様子が窺える。
- 原材料・商品の遅延・停止、生産性・効率性の低下が若干だが増えており、ここでもウッドショックや半導体不足など仕入難が生産停止・遅延の原因となって非効率が発生し、そのため特に製造業と建設業の業績が低迷していると読み取ることができる。
- 資金繰りや固定費負担は改善されている様子が窺える。国の施策である給付金等が功を奏したと見られることもできる。

以上